

砥礪

愛媛県立医療技術大学広報誌 SHIREI

2018. May
14号



C O N T E N T S

- 04 これが、我が歩んできた道なり
今ある自分を思う時
母性・小児看護学講座 教授
豊田ゆかり
- 06 この人に聞く
時の移ろい
理事・事務局長
杉野 洋介
- 08 医技大探訪
カオ、人、つながり
基礎教育学講座 准教授
仲渡 恵美
- 10 医技大探訪
看護を伝える
成人・老年看護学講座 准教授
松井美由紀
- 12 社会で活躍する医技大DNA
妊娠婦と家族に寄り添う
助産師を目指して
四国中央病院 助産師
岡澤 志帆さん
- 14 Global view
平成29年度 短期海外研修報告
高雄医学大学を訪問して
- 16 愛媛雑感
基礎検査学講座・元教授
玉内 秀一
- 18 コラム
サポーター
H. E
- 19 地域に開かれた大学づくり
地域交流センター事業



愛媛の自然と共に鳴る 夢の舞台、砥部キャンパス

医技大の歴史はここから始まった。

若い陶芸作家による砥部焼の進化、とべ動物園の絶滅危惧種復活への挑戦はこの地で進められている。

これが、 我が歩んできた道なり

母性・小児看護学講座 教授

豊田 ゆかり 先生

地域交流センター事業 “看護実践セミナー” の挨拶にて

私は大学や学部を選択する時、何を条件に選んでいたのか？その頃の第一条件は「資格が取れること」「就職に困らないこと」「親元を離れても、生活するに困らないだけのお給料がもらえる仕事につけること」この3つだつたような気がします。高校3年生の夏休みの頃、だつたか、母からあこがれる看護大学あると言われたのです。高校の先生も初めて聞くような大学名を母がどうして知ったのか不思議でした。私の母は、市の保健師で、仕事を研修に参加した時の講師が、素敵な先生だつたそうです。すばらしい講義内容で、自分が看護職だつたこともあり、一生この仕事なら生きていくに困らない、また当時、看護では数少ない看護職だつたことも、一生この仕事なら生きていくに困らない、また当時、看護では数少ない看護職だつたこともあり、一生この仕事なら生きていくに困らない、また当時、看護では数少ない看護職だつたことが、東京にあること、自分の大学選択肢条件に当てはまるところから受験し、入学できました。

入学後、授業が進むにつれ、自分が描いていた大学生活とのギャップが大きく、なんでここにきたのだろう、自分が思い描いていた学生生活とは程遠い授業ぎつしりの日々でした。私は大学生活で、親元を離れ、自由を謳歌し、東京での生活を楽しめたかったのですが・・・看護職になるための勉強は、空き時間なし、覚えることは多い、実習は朝早くから、そしてカン

ファレンスも実習記録もある、患者さん達は、自分よりも人生経験豊か、子ども達は寂しさ、苦痛に苦しんでいる。自分自身が追い詰められるような日々でした。そんな中、病院実習に出で、「この世界（看護）は、自分を成長させてくれる世界だ」と実感した時、看護の世界に少し興味がわきました。

もう一つ、学生時代を振り返る時、その頃学長だつた日野原重明先生の解剖生理の試験を思い出します。日野原先生の試験は、広い実習室に人体模型・内臓の標本・カラーの大きな図表等を部屋一杯に並べ、一人ひとりがその前で解答を書きながら回っていくという、立体的・構造化された試験だつたのを覚えています。日野原先生の発想の豊かさ、何を学び取つてほしいのかが今になつてよくわかる試験内容でした。その後の日野原先生のご活躍の中にも、命や生き方について、ふと立ち止まって考える内容が多いことに気づきました。また、卒業した大学や大学院の先生方の著者・論文・学会での活動等を目的にする機会が多くなり、教育に対する考え方・研究・社会活動等のすばらしさがわかつたのは、教員として少しは成長した証なのでしょうか？「卒業してから、聖路加で学んだ有難さを実感したよね」は同級生達の共通の思いです。大学教員になつて、その頃受け

た教育を思い、愛媛県立医療技術大学を目指した学生が、この大学で学んで良かつたと言つてもらえるような教育をしたいと思っています。

入学した大学が築地にあり、銀座の目抜き通りまで歩いて15分、授業が休講になつた時や、放課後はぶらぶら「銀プラ」を楽しみました。先日懐かしくて銀座にある学生時代にアルバイトしてた本屋と近くの銀座三越に立ち寄つてみました。その時地下のフルーツ売り場で愛媛産紅マドンナを見つけ、価格を見びっくりしました。

趣味はと聞かれたら、子ども達が大学生になり親元をはなれ、成人した今でも喜びそうな洋服を選び送ることが楽しみで、買いたい物の時は、元気が出ます。子ども達も親の喜ばせるツボを心得ているのか「その洋服いいね、どこで買ったの?」と聞かれたの、「お母さんが買って送つてくれた」と言うと「センスあるね」と言われたと、うれしそうに伝えています。学生時代の「銀ブラ」で培つたことが生かされているのでしょうか?就職し、結婚した子ども達へのサプライズの贈り物もそろそろ中止したいと思つてはいるのですが・・・、ついつい子どもの喜ぶ声を聞くと辞められなく、会うと一緒に買い物や美味しい食事を楽しむ浪費家の「親ばか」です。

最後に、現在の私の専門であ

る小児看護のお話をします。

今、行政は子育て支援体制を充実しようと進めています。今の中学生・高校生が、子育てをする頃には子どもを産み育てやすい社会ができているでしょうか?期待したいし、自分に出来ることとして私は「医療的ケアや障害のある子どもが幸せに育つことを支援する在宅看護や地域づくり」の研究に取り組んでいます。医療的ケアや障害のある子どもは、健康な子ども達や高齢者の人口に比べ数が少ないためか、地域社会が取り組む活動として計画されにくい現状があります。「この子どもらを世の光に」と言われた糸賀一雄先生の言葉の意味を感じながら研究に取り組んでいます。

また、日本は「地域共生社会」を目指し、行政も住民も一丸となつて住みよい地域をつくることを目指しています。本学の地域交流センターが中心となり、平成27年から29年の3年間、本学の教員達も地域の専門職や愛媛県・西予市と共に「地域包括ケアを支える人材育成事業」に取り組み、その成果が少し見えています。

今ある自分を思う時



地域包括ケア人材育成事業
研修会の挨拶にて



フロートナースとして活躍する卒業生の講演後、
学部長とともに“ホームカミングディ”にて



“懐かしい大学生時代の卒業写真”
学長日野原重明先生と母とともに
“ピカピカ”してた頃



“愛媛産紅マドンナ”
桐箱に入り輝いてます。
価格にびっくり、思わずパチリ

の時は、両方の両親に子どもを振り分け見てもらいました。特に、義母は祖父母や自分の夫の介護、孫の世話と本当に面倒見のいい、有難い存在でした。ある時、「介護はこれから自分で道、育児はこれまで歩いた道だから、当然よ」と言われたとき本当に頭が下がり、感謝しました。

高校生の段階で自分の生涯の仕事を決めるには、難しいこともあります。看護の世界は、自分が見つめ、成長させてくれる世界ではありますが、人との関

係、ケア行為が必要な仕事です。大変さの中に看護を選んだことを喜びとし、これから的人生を豊かに生きていく世界につながる学びを、愛媛県立医療技術大学の教員達はサポートしています。医療の世界への入り口でお待ちしています。

豊田 ゆかり(とよた・ゆかり)
看護師、高等学校教員、保健師活動を経て、現在に至る。
聖路加看護大学卒業。愛媛大学大学院教育研究科修了。兵庫県立看護大学大学院博士後期課程単位取得後満期退学。

この人に聞く

理事・事務局長

杉野洋介さん

事務局長室にて（普段は上着は着ていません…。）

振り返つてみると、県職員としての十数か所に及ぶ職場の中でも、準備室は特に忙しく、張り詰めた緊張感がありました。施設設備の整備や規程案の作成、国への申請準備などに上司の指導を仰ぎながら取り組みました。が、経験の乏しかった私にとって、文部省や自治省（当時）との折衝などは本当に貴重な経験でした。例えば教員数について、文部省は、設置基準に示されて

平成28年3月、県の異動内示を受け、私自身のおそらく現役最後になる職場が「愛媛県立医療技術大学」であることが分かった時、何とも言えない思いが込み上げてきました。それは約30年前に遡ります。昭和60年4月に保健環境部内に「医療技術短期大学設置準備室」が設置され、私は室員の一人として3年間設置準備事務に従事し、開学した昭和63年4月から平成3年3月まで総務医事課で短期大学に関する事務を担当しました。それ以降はほとんど大学との接点がありませんでしたので、懐かしさとともに、当時とは大きく変わっているであろう大学に対する期待と不安が胸をよぎつたのでした。

この人に聞く ⑥ 砥礪

いる最低基準に関わらず、大学の目標とする教育研究を達成することができる人数を求めます

が、自治体の運営を管理する自

治省は、財政面や職員定数管理の面からできるだけ少ない人数を求める。両者を納得させるべく、県の財政・人事当局と協議しながら折衝を重ね、何とか理解を得ることができたときはほんとうに安堵しました。また、

巡つたこと、ミスを見つけて冷や汗をかきながら差し替えをしたことなどを思い出します。

このように私が開学に関わった短期大学は平成16年4月に4

年制大学に移行し、平成22年4月に公立大学法人化、平成24年4月に助産学専攻科開設、平成26年4月に大学院開設といった大きな流れを経て現在の姿があります。教職員も変わり、施設事務局長室にある設置認可申請書をめくつていると、専任教員はもちろん非常勤講師の先生方

も多少古くなりましたが、この30年間、高度の専門的な知識と技術を備えた医療技術者を継続して輩出してきたことは全く変わつていません。今後も一層そ

の存在意義が高まつていくものと、大学に少しでも関わった者として期待を持って見守っています。

最後に、私は事務局に赴任し

てから、昼休みに30分程度歩くことを日課にしてきましたが、歩いていると季節の移り変わり

を肌で感じることができます。水田では小さな苗が一面緑になり、黄金の稲穂が実ります。み

かんの木に白い花が咲き、緑の実がだんだん大きくなり、黄色く、おいしそうになります。川には悠々と鯉が泳ぎ、川鵜や鷺が餌を探し、鴨が群れています。冬

には遠くに雪を頂いた石鎚山が見えます。このすばらしい環境は何物にも代えがたいと思います。皆さんも大学の周辺を散策してみてはいかがでしょうか。



大学図書館前廊下から望む石鎚連峰



御坂川で情報交換(?)する鷺と川鶴

の面からできるだけ少ない人数を求める。両者を納得させるべく、県の財政・人事当局と協議しながら折衝を重ね、何とか理解を得ることができたときはほんとうに安堵しました。また、

巡つたこと、ミスを見つけて冷や汗をかきながら差し替えをしたことなどを思い出します。

このように私が開学に関わった短期大学は平成16年4月に4

年制大学に移行し、平成22年4月に公立大学法人化、平成24年4月に助産学専攻科開設、平成26年4月に大学院開設といった大きな流れを経て現在の姿があります。教職員も変わり、施設事務局長室にある設置認可申請書をめくついていると、専任教員はもちろん非常勤講師の先生方

も多少古になりましたが、この30年間、高度の専門的な知識と技術を備えた医療技術者を継続して輩出してきたことは全く変わつていません。今後も一層そ



思い出の多い30年前の短期大学設置許可申請書



いよかん畠越しに見る大学校舎

昭和55年4月	愛媛県に入庁
平成22年4月	愛媛県経済労働部産業政策課
平成24年4月	企業立地推進室長
平成26年4月	愛媛県民環境部防災局危機管理課長
平成28年4月	愛媛県民環境部防災局長
	公立大学法人愛媛県立医療技術大学理事・事務局長



アルチンボルド展

基礎教育学講座 准教授

仲 渡 江 美 先生

アルチンボルド展にて。野菜や果物などのCGモデルが組み合わさったアルチンボルド肖像画風な私の顔

力 オ 、 人 、 つ な が り

「心理学」と聞いて、皆さんはどういうイメージを持ちますか。心理学の初回の授業で学生に質問すると、「心が読める」という回答があります。その理由を聞くと、心理學があるから、テレビの影響のため、だそうです。しかし、心が読めるわけではありません。このことは心理学にかれこれ20年以上身を置いている私が、自分を含め、それ以外の人の心を読むことが全くできないため実証されています。

では、心理学とは何でしょうか。日本心理学会によると、心理学を「心の科学」としています。心とは何かと問われると、直接目に見え把握できるものではないため、心理学では心を“行動”と捉えます。行動とは、またまた理解しにくいのですが、例えば、授業中スマートフォンを熱心にいじる学生と、ノートを熱心に書き取る学生を比べると、スマートフォンをいじる（行動）の背景には授業に興味がない（心）、ノートを書き取る（行動）の背景には授業に興味がある（心）といったように、行動からその人の心を推測することができます。

このように心理学は主に人の行動を調べるために、性格や記憶など多数の分野があるのでですが、大きく基礎

心理学（主に実験心理学）と応用心理学（主に臨床心理学）に分けられます。私は実験心理学で顔認知について長年研究をしています。例えば、初対面の人と会うとき、必ず相手の力才を見ますよね。力才を見る、ただそれだけで、その相手が女性か男性か、誰かに似ている、やさしそうな人、どうぞ様々なことを（勝手に）判断したり解釈したりしていると思います。また免許証やパスポートには、名前と共に必ず顔写真が掲載されています。最近では顔認証システム

により、本人かどうかの確認が力才で行われています。つまり力才に含まれる目、鼻、口のパーツはほとんど人が共通に持っているのに、力才は名前と同じく個人特有のものになります。したがって顔認知は言語認知と同様に、私たち人にとって社会生活を営む上で不可欠な機能になります。

私はこれまでに生後1年未満の赤ちゃんの顔認知、生後いつごろから赤ちゃんはお母さんの顔をわかるのか、笑顔と怒り顔を区別できるのか

について、行動実験や近赤外分光法という脳活動計測装置を使って赤ちゃんの脳の活動も調べてきました。現在5歳の娘も、赤ちゃんのときは毎月行動実験に参加しました。その当時、自分の子どもで、赤ちゃんの脳の機能を毎日調べたいと夢見ていたのですが、なんと生まれた我が娘は髪の毛フサフサ。脳の実験には向きだつたため、私の夢は消え去つてしましました。

今は大人の顔認知を研究していますが、研究は一人でできるわけで



顔認知における脳活動計測実験の様子



赤ちゃんの顔認知における行動実験の様子



ポスドク時にご指導いただいた生理学研究所 柿木隆介教授、
共に研究した愛媛大学 大塚由美子准教授、
愛知県心身障害者コロニー発達障害研究所 小林恵研究員

はありません。顔認知研究を通じてこれまでに様々な指導者や仲間の力才との出会いや、つながりがあります。「たかが力才。されど力才」。愛顔のえひめで、これから様々な力才と出会い、人とのつながりを増やしていきたいと思っています。

仲渡 江美（なかと・えみ）
駒澤大学大学院博士後期課程満期退学。
中央大学研究開発機構専任研究员、自然科学研究機構生理学研究所特任助教、大阪樟蔭女子大学芸学部化粧ファッショングループ専任講師を経て、平成28年4月より愛媛県立医療技術大学保健科学部准教授。

成人・老年看護学講座 準教授

松井 美由紀 先生

大学での授業風景

看護を伝える

そういうえば、かつて務めていた愛媛県立中央病院には、綺麗に咲く桜並木がありました。歩けない、動けない患者様と共に、ベッドや車椅子でよく花見をしたことを思い出します。

何十年も前、「教師」になつてほしかつた親に、反対されたにもかかわらず「看護」の道を歩み、現在、看護の「教員」になつていることに不思議な感覚をもつています。

1年目は、「こんなはずではなかつた。」と出来ない自分を嘆き、辞めたい気持ちになることもありました。しかし、親に反対されて「看護師」になつた私は、踏ん張り続けるしかなかつたことを覚えています。学生にも「松井先生が？」と今の姿

でも振り返ると、恵まれた「看護」の道でした。

臨床に戻り、与えられた仕事は、看護師たちの教育・人材育成でした。看護管理者としての道を歩き、成長していく看護師たちの姿を通して人材育成の面白さややりがいを感じいました。しかし、基礎教育の場での土台づくりが、臨床での人材

先日、家を整理していると、患者家族の方々からいただいた手紙がいくつかできました。

その手紙のひとつに「義妹が逝つてから早いもので2週間がたちます。・・(中略)・・義妹が本当に松井様に甘えていました。外に連れて行つてくれたこと、本当に感謝します。・・」

からは想像できないため驚かれますが、私も例外ではありませんでした。

看護師になつて6～7年ぐらいい経つた時、「今の自分でいいのか。」と悩みながらも、普通に仕事をする私がありました。そんな私に厚生省（現厚生労働省）看護研究研修センターの看護教員課程に進学する話があり、東京に1年間行かせていただきました。教育に全く関わつていなかつた私は、授業設計や授業等も上手くできず、悩み苦しみ、悔しさや情けなさを感じる毎日でした。その時に救つてくれた

のが、仲間からの支援や教育実習時の学生からの反応や素直な評価でした。教育学の基礎を学び、教育することの難しさと楽しさを教わったような気がします。そしてこの時に、看護基礎教育の場での土台づくりの大切さを感じました。

育成につながっていくことを感じていた私は、教育の場に身を置くことに決めました。

現在、基礎教育での土台づくりとして、思考過程を育て、知識を行動化し、看護の楽しさを感じることができる『シミュレーション教育』を積極的に取り入れています。臨床に「看護」をつなげるために、私だからで



高機能シミュレーターを利用した血圧測定



シミュレーションでのデブリーフィング中



看護管理者教育（ファーストレベル）での研修

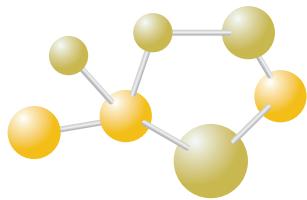
きることを学生に伝えていきた
いと思います。

何十年も前、どうしても「教
える」ことが怖く教師になりた
くなかった私が、「看護」のキ
ヤリアを積み、成長を重ね、「看
護」を語り伝える自分になれた
ことで、やつとこの場に立つて
いるような気がします。

次世代そして将来に「看護」

をつなげていくためには、「看
護」を語り伝え、そして「看護」
を語り伝えることができる看護
職を育てていきたいものです。

松井 美由紀（まつい・みゆき）
岡山大学大学院保健学研究科修了
博士（看護学）
愛媛県立中央病院に入職
看護師・看護師長を経て、
平成20年4月から愛媛県立医療技術大学講師
平成30年4月から現職



妊娠婦と家族に寄り添う 助産師を目指して

四国中央病院 岡澤 志帆さん（助産師）

助産師とは『妊娠中の医学的観察、指導、ケアを行い、新生児の診察、沐浴など妊娠から出産、育児まで母子の健康を守る』専門職のことです。一般的には『出産に立会い、赤ちゃんを取り上げる』といったイメージが大きいかもしれません。しかし、実際にはそれだけにとどまらず、妊娠中から出産に向けての準備を行ったり、出産後も母乳育児を支援したり、家族計画の指導をするなど女性の一生に寄り添い、支援する役割を担っています。

私が勤務している四国中央病院は愛媛県の東の一一番端にあり、市内では唯一、分娩施設のある総合病院です。主に37週以降の正常分娩を取り扱い、年間360件ほどの分娩があります。

当院では平成26年6月より助産師外来を開設しました。助産師外来とは、医師が行う妊婦健診に加えて、助産師が妊娠14週頃と30週に妊娠経過をガイドラインに基づいたアセスメントを行い、それらをもとに妊婦さんと一緒に出産や育児について考えていく外来のことです。さらに、妊娠36週になり、医師が正常な妊娠経過と判断すれば、それ以降の妊婦健診を助産師外来で行っています。助産師外来の妊婦健診では、助産師も超音波検査を行い、胎児の状態を確認しています。また、医師の妊婦健診が36週以降も継続して必要なハイリスクな妊婦さんには、必要な食生活や運動、仕事についてなどの保健指導を行い、その人らしいお産や育児ができるように支援





母親学級で行ったお産劇



当院で行っている母親学級



先輩助産師から超音波検査について指導を受けている場面
(入院中の妊婦さんに同意をもらい練習させてもらっている)

私は助産師外来の担当をはじめて3年目になりました。担当しはじめた頃は、超音波検査の使用など、初めてのことばかりで戸惑いや不安が大きかつたですが、先輩助産師の指導のおかげで、自信を持つことができました。

今では、助産師外来でゆっくりと妊婦さんやその家族とお話しができるため、医師には言えない些細な妊娠中の不安を傾聴することができます。また、出産に向けての話し合いをしながら、妊娠期から妊婦さんに寄り添ったケアを行うことができるようになり、私自身が助産師外来に楽しさを感じています。さらに、妊娠中に助産師外来でお会いし、妊娠中の思いや妊婦さん自身の背景を知ることで、出産時に産婦さんや家族の出産の希望（バースプラン）もスマートに聞き出すことができます。それらを活かすために、助産師外来でアセスメントした妊娠経

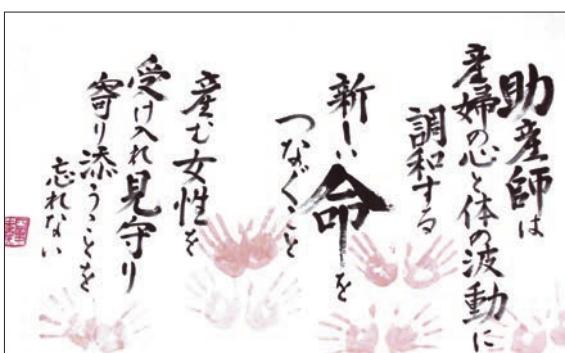
しています。

私は助産師外来の担当をはじめて3年目になります。担当しはじめた頃は、超音波検査の使用など、初めてのことばかりで戸惑いや不安が大きかつたのですが、先輩助産師の指導のおかげで、自信を持つことができました。

今では、助産師外来でゆっくりと妊婦さんやその家族とお話しができるため、医師には言えない些細な妊娠中の不安を傾聴することができます。また、出産に向けての話し合いをしながら、妊娠期から妊婦さんに寄り添ったケアを行うことができるようになり、私自身が助産師外来に楽しをを感じています。さらに、妊娠中に助産師外来でお会いし、妊娠中の思いや妊婦さん自身の背景を知ることで、出産時に産婦さんや家族の出産の希望（バースプラン）もスマートに聞き出すことができます。それらを活かすために、助産師外来でアセスメントした妊娠経

過から、出産のリスクを予測できるため、異常の早期発見、産科医師や小児科医師との報告・相談など協働した関わりを行うことができるようになります。さらに、新人の頃に担当させていただいた方が2人目、3人目を妊娠して助産師外来でお会いする機会も多くなり、前回の分娩を妊婦さんと振り返りができ、学びや自分が行つたケアを振り返ることができるもの、助産師としてのやりがいを感じています。

これからも、妊娠中から寄り添ったケアを継続して提供できる助産師を目指して、妊娠婦の主体性を尊重し、真のパートナーシップを目指し研鑽していくことを願っています。



病棟に飾っている垂れ幕

岡澤志帆（おかざわ・しほ）
平成23年4月 医療技術大学 看護学部3年次編入学
平成25年3月 看護学部卒業
平成25年4月 四国中央病院人職（助産師）現職

Global view

高雄医学大学を訪問して

看護学科

日 程：2018年3月20日(火)～3月28日(水)

参加学生：看護学科3年生5人

研修内容：現地学生・教員によるキャンパスツアー、大学附属病院の見学、講義の聴講
(Medical & Surgical Nursing, Long Term Care, Human Development)、
大学病院と提携した地域のリハビリテーションセンターの活動観察など



昨年度に続き、今年度も短期海外研修を実施しました。訪問先は台湾の高雄医学大学（高雄醫學大學）です。高雄医学大学は医・歯・薬・看護・健康科学・生命科学の6学部を擁し、1954年に台湾で初めて設立された私立医療系大学です。各学科の研修の様子をご紹介します。

「参加学生の声」



高雄医学大学にて



鍼灸の講義に用いられる像と一緒に



英語による病院内の説明

具体的な医療や看護の違いだけでなく、学びの視点を得られたことが大きな収穫でした。広い視野をもち、海外の友達と看護について語り合える英語力の向上を目指したいと思います。(K)

看護の学び方や自分の人生觀を変える経験となりました。言語の壁はありますが、それ以上の親切心と仲良くなりたいという気持ちがあればコミュニケーション

ショングがされることを学びました。(S)

今回の研修では、台湾の看護を中心とした医療について、また大学や病院での看護の教育体制などについて様々なことを学ぶことができました。台湾の学生はとても親切で、自分のことだけではなく、他人に優しくすることの意味を考えさせられました。とても楽しく、学びの多い研修でした。(T)

台湾研修では、日本との文化

や歴史の違いだけではなく、台湾の看護の実際を知ることができました。大学にも様々な設備が整つており、教育環境が充実していることもわかり、とても充実した研修でした。(I)

実際に台湾の病院と学校で、活動や授業に参加させてもらうことで多くの刺激を受けました。また、現地の人はみんな優しく、たくさんの経験ができました。学んだことをこれからに生かしたいと思います。(T)

平成29年度 短期海外研修報告

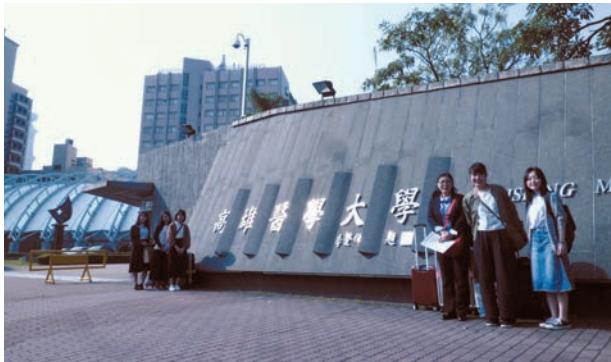
臨床検査学科

日 程：2018年3月23日(金)～3月31日(土)

参加学生：臨床検査学科3年生4人、2年生1人

研修内容：現地学生・教員によるキャンパスツアー、大学附属病院の見学、

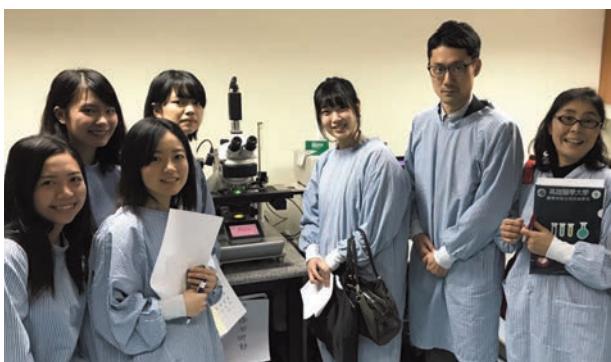
講義の聴講 (Clinical Physiology, Physiology Laboratory, Molecular Biology) など



高雄医学大学にて



学生による英語での自己紹介



病院検査室の視察

「参加学生の声」

高雄医学大学の海外短期研修では、現地の講義を実際に受講したり、現地の学生と交流することができ、充実した9日間を過ごすことができました。また講義への参加だけでなく、附属病院の見学や大学の博物館へ行くことができ、台湾の西洋医学の歴史から現代の実際の医療の検査について知ることができ大変興味深かったです。

(A)

今回の研修では、台湾の病院や研究室を実際に見ることができ、技術レベルの高さに驚きました。

（S）

今回の研修で思つたのは、学習

だけでなく、病院でも最新の機械や設備を多く取り込んでいて自動化が進んでいました。大学の授業でできることができた大変充実した経験となりました。(F)

台湾は、道路や公共施設、ショッピングモールが広く、大学も大きく設備も整っていて驚きの連続でした。また、授業を受けたり現地の学生と交流したりと、刺激の多い毎日を過ごすことができ、とても充実した研修となりました。

（S）

今回の研修で思つたのは、学習

だけでなく、病院でも最新の機械や設備を多く取り込んでいて自動化が進んでいました。大学の授業でできることができた大変充実した経験となりました。(F)

台湾は、道路や公共施設、ショッピングモールが広く、大学も大きく設備も整っていて驚きの連続でした。また、授業を受けたり現地の学生と交流したりと、刺激の多い毎日を過ごすことができ、とても充実した研修となりました。

（S）

今回の研修の中で、高雄医学大学附属病院の見学が印象的でした。電子化が進んでおり、部署も多く沢山の試験が行われていてかなり規模の大きさなどにたくさんのが刺激を受けました。(S)

今回の研修の中では、高雄医学大学附属病院の見学が印象的でした。電子化が進んでおり、部署も多く沢山の試験が行われていてかなり規模の大きさなどにたくさんのが刺激を受けました。研修で学んだことを忘れずにこれから勉強に励んでいきたいです。(N)

愛媛雑感

愛媛を去るにあたつて

基礎検査学講座・元教授

玉内 秀一

五年間も住むと愛媛県内を車で移動することも躊躇せずに、出かけられるようになった。一昨年は、東予（四国中央、新居浜、西条、今治）そして、昨年は南予（八幡浜、内子、大洲、鬼北、宇和島、愛南）まで足をのばした。この五年で愛媛県のめぼしいところは制覇したと言つていのかもしれない。特に昨年は、宇和島に何度も足を運んだことだろう。日常の疲れを癒す為に、車で高速を飛ばせば約一時間半で宇和島に到着する。あの一番暑かつた七月二十三日に牛鬼まつり・和靈大祭に足を運んだ。和靈神社は海の神を祀つてゐるとの事、たくさんの大漁旗が掲げられているのは圧巻であった。大漁旗を間近で見たのは初めてでその立派さに驚いた。とにかくお祭りとあつ

て市内の駐車場を確保することが観光にとつては重要な事なのでその後は徒歩で宇和島を探索した。宇和島城周囲だけでも結構な距離があり、途中、車で移動するべきであったと後悔したが既に遅くもう半分も歩いていた。伊達博物館・天赦園と市内観光も済ませた。宇和島藩が、鹿児島の島津藩との交流があることを知つて驚いた。家内の叔父・叔母達は現在鹿児島に在住している。どちらの藩にも共通していることと言えば、藩の様子を觀察し良き物を取り入れようとする洞察力をもつているところではないだろうか。先日、初めて宇和島に宿泊した。おでんをつまみに美味しい酒を飲み交わし、若い地元の方々と宇和島談義に華がさいた。

「また、来て下さいね」の変わりに「宇和島に越して来てください」と言われた。こんな声かけも私から見た宇和島の魅力の一つになつてゐる。今から四十五年前に宇和島を舞台としている朝ドラが放映されたのを記憶している。「北の家族」は、高橋洋



来島海峡大橋 (昼食後ちょっと一休み)



法華津峠 (旧 56 号線) からの眺めは最高だった



大学卒業後 38 年目の同窓会にて



和靈神社
(今までに見た事のない本殿の立派さ驚かされた)



和靈大祭
(大漁旗の立派さにびっくり。昔はもっと多かったと聞いた)



宇和島城からの市街の眺望

子をヒロインとした家族のドラマで、あつたと思う。函館に住む家族が、別れ別れになり最後は父親が宇和島の地で生活をスタートさせるという場面を覚えているが、なぜ、宇和島が人の心を癒す場所に感じられた（自分が宇和島に行く事はないだろうと当時思っていたように記憶している）。昨年は、自分の体調面からも少し疲れていたので、宇和島のそんなのどかなところが、私を癒してくれるので、宇和島に足を運ぶことがマイブームとなつたのだろうか。さて、この三月で愛媛での五年の生活に終止符を打つことにした。

愛媛に赴任して、自分が残せたものは何かを冷静に考えると、赴任時の目標を達成できたとは感じていない。ただ、何も知らない地で悪いながらも多くの方に支えられ、多くの学生さんとも関わることができた。機会があれば大学に足を向けてくれたことはいつも嬉しく感じていた。愛媛を去ることは、後ろ髪を引かれる思いもあるが、新たな自分を見いだつたのか記憶はない。私は十代半ばだったと思うが、宇和島と言う地が人の心を癒す場所に感じられた（自分が宇和島に行く事はないだろうと当時思っていたように記憶している）。

宇和島と言ふ事はないが、なぜ、宇和島が車で場面を覚えているが、なぜ、宇和島が人の心を癒す場所に感じられた（自分が宇和島に行く事はないだろうと当時思っていたように記憶している）。昨年は、自分の体調面からも少し疲れていたので、宇和島のそんなのどかなところが、私を癒してくれるので、宇和島に足を運ぶことがマイブームとなつたのだろうか。さて、この三月で愛媛での五年の生活に終止符を打つことにした。

愛媛に赴任して、自分が残せたものは何かを冷静に考えると、赴任時の目標を達成できたとは感じていない。ただ、何も知らない地で悪いながらも多くの方に支えられ、多くの学生さんとも関わることができた。機会があれば大学に足を向けてくれたことはいつも嬉しく感じていた。愛媛を去ることは、後ろ髪を引かれることもあるが、新たな自分を見いだすだろう。美しい宇和海や瀬戸内を脳裏に焼き付け関東で教員としての生活を再スタートさせたいと思つて

いる。

最後になるが、職場外でお世話になつた愛媛の皆さんや二年間広報委員会で共に活動してきた教職員スタッフの皆さんに心より感謝するとともに、今後のみなさんの活躍を関東の地から応援させていただきます。

「五年間お世話になりました。」

プロフィール	
昭和61年3月	東海大学大学院医学研究科博士
昭和61年4月	課程修了（医学博士）
平成24年10月	北里大学医学部微生物学教室助手
平成25年2月	北里大学医学部免疫学教室講師
平成25年4月	北里大学医学部准教授
平成25年4月	愛媛県立医療技術大学保健科学部教授
平成30年4月	大東文化大学スポーツ・健康科学部特任教授



宇和海（間近にみる養殖筏群）



宇和海（奥にみえるのは真珠養殖）



市街からみた宇和島城



卒業研究についてのディスカッションの際に
(左：伊予田都さん、中央：筆者、右：長嶺優菜さん)



旧東洋紡績レンガ倉庫前にて（八幡浜保内地区）



遊子水荷浦の段畠



写真提供「一般社団法人日本ボッチャ協会」

ボッチャの国内大会を観戦し、選手の多くは、水分や食事の介助を必要としていることを知りました。私は、看護師として食支援に携わってきた経験を生かし、ボッチャ選手団の水分・栄養補給サポートになりたいと思います。ボッチャ選手団が金メダルを取る夢を共に追いかけ、えひめ国体の歌詞にあるように、「『できる』そう思うことが何よりも大切、背中押すよがんばれ』の声が味方に♪、そんな支える力になりたいと思う今日この頃です。

(H・E)

昨秋、天皇皇后両陛下のご臨席のもと温かいおもてなしと笑顔あふれる国体として、愛顔つなぐえひめ国体・えひめ大会が開催されました。本学体育館は、バドミントン選手団の練習場となり、バドミントンが大好きな私は、熱の入った練習に心をわくわくさせていました。また、本学の4年生は、障がい者スポーツえひめ大会にボランティアとして参加し、選手団を支える力となりました。

スポーツの祭典といえば、2020年に東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。私が注目している競技は『ボッチャ』です。ボッチャは、重度脳性麻痺者もしくは同程度の四肢重度機能障がい者のために考案されたスポーツで、パラリンピックの正式種目となっています。目標の白いボールに、赤・青のそれぞれ6球のボールを近づけるかを競います。ボールを投げることができなくとも、滑り台のような投球補助具を使って、補助者のサポートを受けてボールを転がします。

コラム column

「サポーター」



地域に開かれた大学づくり 地域交流センター事業

情報発信	研究調査	人材育成（一般）	人材育成（専門職）	平成30年度予定事業
活動報告書作成	西予市地域包括ケア人材育成に関する成果調査	えひめ高校生生体機能研究プログラム えひめ高校生生体機能研究プロジェクト 高校生出張講座／メディアルトーク いのちを守るお仕事体験	卒業生のための研究相談 思春期スキルアップセミナー 臨床検査技師実践セミナー ホームカミングディ	
地域貢献グッズ貸出し				

～地域に開かれた大学を目指している～

活動拠点としての地域交流センター

県民すべての保健・医療・福祉の増進に寄与することを目的に活動し、本年で14年目を迎えました。地域交流センターはこの目的実現にむけ、①人材育成機能、②調査研究機能、③相談支援機能、④情報発信機能の4つの機能をもち、本学の施設、設備と教職員、学生ボランティア等の人材を活用した事業を開拓しています。

看護実践セミナー

講師：滋賀医科大学社会医学講座
(衛生学) 埼田和史 准教授

「医療・介護の腰痛対策の進め方」
職場における腰痛予防対策指針

についてご講演いただき、安全な労働環境を作りについて考えました。



リレー・フォード・ライフ・ジャパン2017えひめ

がんサバイバー・家族の希望や思いを胸に学生・教職員がたすきをつなぎ、24時間歩きました。



平成29年度の活動の一部を紹介します

Information

【インフォメーション】

図書館利用案内《学外の皆さんへ》

休館日 日・祝日 12月28日～1月4日 藏書点検期間 メンテナンスなど

利用時間 平日／9:00～21:00 土曜日／9:00～17:00 (入館の際は、受付まで)

館内閲覧 自由にどうぞ。図書、雑誌、新聞、ビデオなどがあります。

館外貸出 登録の際には身分証明書（現住所が確認できるもの）が必要です。
貸出冊数と期間は、5冊2週間です。

図書返却 図書を返却するときには、「図書貸出券」は不要です。
閉館時には、事務棟入口のブックポストにお返しください。

コピー 館内のコピー機でコピー可能。但し、著作権法で許可された範囲内でのコピーとなります。
コピー代金は有料（1枚10円）小銭を用意してください。

蔵書検索 図書館のホームページをご利用ください。

文献検索 医中誌等データベース・電子ジャーナルを利用できます。
利用前にカウンターまでお越しください。

平成30年度 学年暦

4月	4/2～4	ガイダンス等
	4/4	入学式
	4/5～	前期授業
	4/6	健康診断・新入生オリエンテーション
5月	5/1	交通安全講習会・進路セミナー
	5/12・19	内科検診
6月	6/20	開学記念日
	6/23	ホームカミングデー
7月	7/30～8/3	前期試験
8月	8/4・5	第1回オープンキャンパス
	8/8～9/30	夏季休業日 (助産学専攻は8/31まで)
9月	9/8	助産学本学推薦枠入試・大学院入試

10月	10/1～	後期授業
	10/26	防災訓練
	10/27・28	学生祭・第2回オープンキャンパス
11月	11/17	学部 推薦入試・社会人特別選抜入試
	11/18	助産学専攻科入試 県内推薦枠・一般
12月	12/8	第3回オープンキャンパス
	12/27～1/3	冬季休業日
1月	1/19・20	大学入試センター試験
2月	2/4～2/8	後期試験
	2/25・26	学部 一般入試 前期日程
3月	3/12	学部 一般入試 後期日程
	3/19	卒業式・修了式
	3/20～3/31	春季休業日

詳細な学年暦はホームページをご参照ください。
<http://www.epu.ac.jp/campus/calendar/index.html>

広報誌「砥礪(しれい)」についての意味

『砥礪(しれい)』とは、「①砥石(といし)②とぎみがくこと」とあり、さらに「学問、修養などを高めようと努力すること」【大辞泉：小学館】などの意味があります。平成16年に大学が開学して1年経った平成17年に、本学の位置する砥部町にちなみむとともに、大学広報誌の名称としてふさわしいということで多くの賛同を得て決定しました。

編集後記

愛媛県立医療技術大学広報誌「砥礪」は、第13号から大幅な刷新を行い多くの方の手元に届けられました。第14号は、トピックスとしてお二人の方を取り上げさせていただきました。日々忙しく、時間に追われていることが多いと思いますが、一瞬立ち止まって「第14号砥礪」に目をむけていただければと思います。平成30年4月から新メンバーのもとで広報委員会活動が始まります。前広報委員長として、教職員方々の意見を上手く吸い上げまとめられたのかどうかと言うことは疑問ですが、各委員それぞれが責任をもって対応くださったことや砥礪発刊にあたり教職員以外の多くの方々にも協力頂き、この二年間の任期を全うすることができたことにお礼申し上げます。

今後とも当大学の活動にご協力頂ければ幸いです。

広報委員会委員長

公立大学法人 愛媛県立医療技術大学

〒791-2101 愛媛県伊予郡砥部町高尾田543番地

TEL 089-958-2111 FAX 089-958-2177

ホームページ <http://www.epu.ac.jp/>

